

ぼうさい通信 Vo.19



平成 31 年 2 月 15 日発行
熊本県立湧心館高等学校

今月のテーマは・・・「避難所での注意事項・ルール」

熊本地震から丸3年が経とうとしています。高校3年生のみなさんは、入学後間もなく熊本地震を体験し、心配や不安の中での高校生活のスタートであったと思います。現在では災害公営住宅の建設が進み、12市町村で1,717戸が整備されています。しかし、まだ仮設住宅に住んでいる方もおられ、これからもまだまだ災害公営住宅の建設は進められていくことでしょう。早く地震前の状態に戻れることを願うばかりです。

避難所とはどんな所・・・

大規模な災害が発生し、その災害で住まいを失ったときなどに、被災者が避難生活を送るための場所で、市町村が指定します。学校や公民館のような公共施設で、本校も避難所になっています。避難所にはその付近の地域の方々が避難しに来られます。避難される家族の構成もさまざま、お年寄りの方や、小さい子ども、ペットがいたりといろいろな方が避難してこられます。その災害が落ち着き、各避難者の住宅が住めるようになるまでは、みんなで協力し避難所で生活していくこととなります。避難所には支援物資等も届きますので、高校生のみなさんは、できる限り避難所の運営等に協力しましょう。支援を受け続けるのではなく、自分に何ができるのか考えることが大切です。自分の身を守る（自助）ことはもちろんのこと、周りの方々を助ける（共助）ことができるような人間になりましょう。将来このような災害が起こっても、熊本地震の経験を活かし、正しい行動がとれるようにしましょう。

避難所



南海トラフ地震って起きるの？

政府の中央防災会議で、南海トラフ地震対策の報告書案が提示され、そこには今後30年以内に70～80%の確率で地震が発生し、最悪の場合、死者が32万人以上に達するとされています。これはいつ起こるか分からないことではありますが、年々確率は徐々に上がっていきます。この地震が発生すると、静岡県から宮崎県にかけての一部では震度7の揺れが、また隣接する周辺の広い地域で震度6強から6弱。太平洋沿岸には10mを超える大津波が発生すると想定されています。何か起こった時のためにも「有事のことを考え平事の時から対策を」何も起こっていない時に少しでも考えてみましょう。発生を防ぐことはできませんが、被害を最小限に抑える（減災）ことは可能です。減災を意識しつつ、少しでも対策を考えて自助・共助で乗り切れるようにしましょう。